

# 新刊図書の紹介

## 魚類のそ上降下環境改善上のワンポイントアドバイス

本書は、これまで「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」に認定された各々の河川の事業実施に際してたびたび出てくる疑問や課題を整理し、実務担当者へのアドバイスとなることを意図して作成されたものです。

### < 主要目次 >

1. 魚が魚道に集まりやすく入りやすくする  
魚道の設置位置は生息する魚種や河床の特性を考慮し設定する  
魚道を下流側に突出させない  
魚道下流側の障害に注意する  
など5項目
2. 魚がのぼりやすくする  
< 横断工作物本体 >  
切欠きの断面形状は流況に応じて魚の移動に必要な水深・流速が得られるようにする  
水叩きにブロックを設置する場合には伏流しないようにする  
など6項目  
< 魚道の工夫 >  
魚道の平面形状はできるだけ緩やかにする  
異なる形式の魚道を接続しない  
魚道上流端と取水口はできるだけ分離する  
など8項目
3. 魚が降りやすくする  
降下魚が落下衝撃を受けにくい構造とする  
粗石付魚道には尖った石ではなく玉石を用いる
4. 追跡調査



編著：魚のすみやすい川づくり研究会  
発行：(財)リバーフロント整備センター  
2001年3月発行  
A4版・39頁・800円＋税 ISBN4-947726-22-9

## 自然共生河川研究所(岐阜分室)の引越し

当センター設立から9周年に当たる平成7年7月1日に(財)ダム水源地環境整備センターと合同で開設いたしました自然共生河川研究所(岐阜分室)がこのたび岐阜県総合庁舎内で引越しいたしました。

引越しに伴ない4月13日に開かれました開所式では、前岐阜県桑田副知事はじめ来賓の方々の多数のご臨席のもと、(財)ダム水源地環境整備センターの加藤理事長と当センター松田理事長の手によって看板が掲げられ、新たな岐阜分室がスタートいたしました。



## < 編集後記 >

当センターの機関誌「RIVERFRONT」もこの号で41号を数えるに至りました。読者の皆様方の「本誌を楽しみにしています」の便りに励まされ、こままで続けてこれたものと感謝いたします。

さて、本号を手にとられた時点でお気づきのこととは思いますが、本機関誌もB5版からA4版にリニューアルいたしました。少し大きめの紙面に少し大きめの活字で「読みやすくなったのでは...」と期待をしています。

また、本誌の内容も当センターが調査研究をおこなっています技術テーマを特集していこうと考えています。本号は「自然をいかした川づくり」をテーマに特集いたしました。関連する研究報告や研究要旨もできるだけ多く掲載し、今の当センターの姿を少しでもご紹介できたらと思っています。

アンケートはがきを綴じこみましたので、読者の皆様からのご感想・ご意見などお聞かせくださいようお願いいたします。

(M.K.)